



## 平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年2月10日

上場取引所 名

上場会社名 中部水産株式会社  
コード番号 8145 URL <http://www.nagoya-chusui.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉川 輝喜  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 鈴木 祥司

TEL 052-683-3001

四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第3四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	32,015	△1.3	140	△29.9	224	△21.1	152	△13.5
28年3月期第3四半期	32,453	0.8	199	34.9	284	13.5	176	25.0

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
29年3月期第3四半期	8.56		—	
28年3月期第3四半期	9.90		—	

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	16,552		12,645			76.4
28年3月期	14,544		12,441			85.5

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 12,645百万円 28年3月期 12,441百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	4.00	—	5.00	9.00
29年3月期	—	4.00	—		
29年3月期(予想)				4.00	8.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

28年3月期期末配当金の内訳 普通配当 4円00銭 記念配当 1円00銭

### 3. 平成29年 3月期の業績予想(平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	41,000	△1.6	140	△23.6	260	△13.6	170	△2.2	9.54

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	19,269,000 株	28年3月期	19,269,000 株
29年3月期3Q	1,455,175 株	28年3月期	1,454,219 株
29年3月期3Q	17,814,424 株	28年3月期3Q	17,816,166 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
(3) 追加情報 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に雇用環境の改善が見られるなど、緩やかな回復基調で推移しましたが、中国やアジア新興国経済の景気減速に加え、米国大統領選後の政策動向により、為替相場や株式市場が大きく変動するなど、景況感は以前として先行き不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、天候不順による水産物の不安定な漁獲状況、それに伴う入荷数量の減少や市場外流通との競争激化により市場物流の低下傾向が続いており、引き続き厳しい事業環境が続いております。

このような外部環境のもとで、当社は、変化するマーケットや激化する販売競争に対応した集荷、営業活動を積極的に推し進めるとともに、業績の向上と経営体質の強化のための諸施策に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は、卸売部門が取扱数量の減少により微減収となり、飼料工場部門が養鰻業者の需要減で大幅な減収となるなど、全体で32,015百万円(前年同四半期比1.3%減少)となりました。経常利益は、管理費が若干減少しましたが、売上の減少による売買利益の減少で224百万円(前年同四半期比21.1%減少)となり、四半期純利益は、152百万円(前年同四半期比13.5%減少)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

## (卸売部門)

鮮魚は、本メジ、養殖サーモン、年末商材のウニ、カキが順調な入荷で売上増となり、養殖ブリが好調な販売と単価高で売上を伸ばしましたが、国内のタラ、天然石カレイが漁獲減となり、輸入生鮮キハダが円安により入荷減となるなど、全体で減収となりました。

冷凍魚は、冷ホタテ貝柱が高値により低調な荷動きで売上減となりましたが、冷イカ、冷キンメダイが単価高で売上増となり、冷カニ、冷チリ産養殖サーモントラウト、冷輸入紅サケが加工用中心に売上を伸ばし、全体で増収となりました。

塩干魚は、カズノコの原卵の取扱数量の増加、サケの加工業者への販売増、イクラの単価高の影響などで売上増となりましたが、愛知でのチリメンの漁獲減、加工用カラスガレイの原料不足、竹輪、半平などの純練製品が特売用の低価格商品の搬入減で、減収となりました。

売上高は30,105百万円(前年同四半期比0.9%減)、営業利益は312百万円(前年同四半期比9.0%減)となりました。

## (飼料工場部門)

水産向け魚粉は、原料価格の下落により販売価格は値下げしたものの、販売数量は伸長し売上増となりましたが、養鰻用飼料は、国内向け飼料がウナギの成育遅れで需要減となり、輸出用飼料が為替の影響と価格競争の激化が重なり販売数量が減少し、売上高は944百万円(前年同四半期比21.9%減)、営業利益は26百万円(前年同四半期比58.8%減)となりました。

## (食品加工場部門)

切イカが新規販売先の売上が順調に伸び、ポット商品は問屋からの受注が増加、量販店向けのイクラ、数の子の委託加工の増加により、売上高は408百万円(前年同四半期比21.8%増)、営業損失は21百万円(前年同四半期は営業損失24百万円)となりました。

なお、平成29年2月10日付公表の「食品加工場部門の廃止に関するお知らせ」のとおり、主力のイカ珍味加工品の原料価格が近年、不漁により大幅に高騰したことにより、採算がさらに悪化し、業績の改善が見込まれないため、食品加工場部門の廃止を決定いたしました。今期の業績に与える影響は軽微であります。

## (冷蔵工場部門)

塩鮭鱒、サンマ及び外国貨物の入庫は減少しましたが、液卵、ホタテ製品、給食関係の冷凍食品の取扱いが増加し、売上高は474百万円(前年同四半期比4.5%増)、営業利益は70百万円(前年同四半期比9.2%増)となりました。

(不動産賃貸部門)

売上高は82百万円(前年同四半期比0.2%増)、営業利益は46百万円(前年同四半期比2.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、16,552百万円となり、前事業年度末に比べ2,007百万円(13.8%)増加しました。これは主に、有価証券の減少600百万円などがありましたが、受取手形及び売掛金の増加1,749百万円、投資有価証券の増加607百万円、商品及び製品の増加376百万円などによるものであります。

負債は、3,906百万円となり、前事業年度末に比べ1,803百万円(85.8%)増加しました。これは主に、未払法人税等の減少40百万円などがありましたが、買掛金の増加1,710百万円、受託販売未払金の増加64百万円などによるものであります。

純資産は、12,645百万円となり、前事業年度末に比べ204百万円(1.6%)増加しました。これは主に、利益剰余金の減少7百万円などがありましたが、その他有価証券評価差額金の増加212百万円などによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期累計期間は、業績予想の想定内で推移しており、平成28年11月11日発表の通期の業績予想は変更していません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,257,859	2,320,739
受取手形及び売掛金	1,719,302	3,468,456
有価証券	3,600,000	3,000,000
商品及び製品	1,033,579	1,409,698
仕掛品	51,638	45,181
原材料及び貯蔵品	402,748	518,882
その他	67,320	36,557
貸倒引当金	△8,997	△19,058
流動資産合計	9,123,452	10,780,457
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	937,941	888,320
その他(純額)	735,715	728,967
有形固定資産合計	1,673,657	1,617,287
無形固定資産	13,991	12,914
投資その他の資産		
投資有価証券	3,251,397	3,858,797
その他	504,543	308,809
貸倒引当金	△22,341	△25,974
投資その他の資産合計	3,733,598	4,141,632
固定資産合計	5,421,247	5,771,834
資産合計	14,544,700	16,552,291
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,162,026	2,872,839
受託販売未払金	105,523	170,245
未払法人税等	51,495	10,881
賞与引当金	56,100	17,251
役員賞与引当金	13,370	—
その他	167,883	226,559
流動負債合計	1,556,398	3,297,777
固定負債		
退職給付引当金	446,315	425,607
その他	100,191	183,037
固定負債合計	546,507	608,645
負債合計	2,102,905	3,906,422

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,450,000	1,450,000
資本剰余金	1,045,772	1,045,772
利益剰余金	10,148,830	10,140,989
自己株式	△592,238	△592,474
株主資本合計	12,052,363	12,044,286
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	389,430	601,582
評価・換算差額等合計	389,430	601,582
純資産合計	12,441,794	12,645,869
負債純資産合計	14,544,700	16,552,291

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	32,453,570	32,015,930
売上原価	30,942,251	30,576,086
売上総利益	1,511,319	1,439,843
販売費及び一般管理費	1,311,349	1,299,710
営業利益	199,970	140,133
営業外収益		
受取利息	10,743	10,984
受取配当金	39,091	39,712
受取手数料	26,190	25,537
その他	10,088	9,094
営業外収益合計	86,114	85,329
営業外費用		
雑損失	1,545	996
営業外費用合計	1,545	996
経常利益	284,538	224,466
特別損失		
解約違約金	18,800	—
特別損失合計	18,800	—
税引前四半期純利益	265,738	224,466
法人税、住民税及び事業税	55,788	49,841
法人税等調整額	33,562	22,135
法人税等合計	89,350	71,976
四半期純利益	176,388	152,489



- (3) 四半期財務諸表に関する注記事項  
(継続企業の前提に関する注記)  
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	食品加工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高								
外部顧客への 売上高	30,371,519	1,209,848	335,601	453,944	82,656	32,453,570	—	32,453,570
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	72,563	—	12,198	86,220	—	170,982	△170,982	—
計	30,444,082	1,209,848	347,799	540,164	82,656	32,624,553	△170,982	32,453,570
セグメント利益 又は損失(△)	343,781	63,924	△24,939	64,874	47,894	495,536	△295,566	199,970

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△295,566千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	食品加工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高								
外部顧客への 売上高	30,105,175	944,984	408,741	474,193	82,835	32,015,930	—	32,015,930
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	75,069	—	34,459	93,040	—	202,569	△202,569	—
計	30,180,244	944,984	443,200	567,234	82,835	32,218,499	△202,569	32,015,930
セグメント利益 又は損失(△)	312,954	26,330	△21,292	70,831	46,895	435,719	△295,585	140,133

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△295,585千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。